

国立大学法人東海国立大学機構大学総括理事候補者について

松尾清一次期機構長候補者は、本日、国立大学法人東海国立大学機構機構長選考会議において、大学総括理事として下記の者を任命することについて意見を聴き賛同を得たことから、同人を大学総括理事候補者として文部科学大臣へ申し出ることとした。

記

- 1 現職・氏名 国立大学法人東海国立大学機構副理事、岐阜大学医学部附属病院
院長・吉田 和弘
- 2 任 期 令和4年4月1日～令和10年3月31日
- 3 選任理由

岐阜大学の目標は第一に、「知と人材の集積拠点」としてグローバルな課題への対応と共に地域社会の構造改革に貢献し、地域中核大学（仮称）のモデルとなること、第二に、東海国立大学機構（以下「東海機構」）を基盤として教育・研究・社会連携・国際化を通じて、東海地域の未来型社会への転換（TOKAI-PRACTISS）をリードしこれに貢献することである。これらの目標達成には多くの課題があるが、地域中核大学を目指す大学として達成しなければならない。特に、経営と教学を分離する中でこれらを実現していくためには、機構長との緊密な連携の下で教学ガバナンスを機能させ、改革マインドを持って岐阜大学の教育研究力の向上に専心できる人物が教学面をリードすることが不可欠である。

吉田和弘氏は岐阜大学医学部附属病院長として巨大な組織を率いてコロナ禍においても卓越した経営手腕を発揮してきた。また、岐阜大学の有する組織や資源をフルに活用して「ミ・ラ・イ・エ構想（地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育の戦略的推進計画）」として結実させ、もって岐阜大学と東海機構のミッション・ビジョンを大きく発展させようとする極めて積極的で高い志を有している。このような実績と指導力から第4期中期目標期間において岐阜大学の飛躍的な発展をリードするとともに、東海機構のミッションやビジョンの達成に貢献できる人物として、同氏が大学総括理事（岐阜大学長）候補者として適任である。

- 1 現職・氏名 国立大学法人東海国立大学機構理事、名古屋大学副総長・
杉山 直
- 2 任 期 令和4年4月1日～令和10年3月31日
- 3 選任理由

名古屋大学の目標は第一に、わが国のトップ研究大学の一つとして卓越した研究成果をあげるとともに、「世界と伍する研究大学」を目指すこと、第二に、東海機構を基盤として教育・研究・社会連携・国際化を通じて、東海地域の未来型社会への転換（TOKAI-PRACTISS）をリードしこれに貢献することである。これらの目標達成には多くの課題があるが、中部地域の旗艦（基幹）国立大学として実現しなければならない。特に、経営と教学を分離する中でこれらを実現していくためには、機構長との緊密な連携の下で教学ガバナンスを機能させ改革マインドを持って名古屋大学の教育研究力の向上に専心できる人物が教学面をリードすることが不可欠である。

杉山直氏は2019年4月からこれまで統括副総長（プロボスト）として、世界、日本、そして地域の動向を俯瞰しながら全学の調整を行いつつ諸改革に積極的に取り組んできた手腕と実績があり高く評価できる。また東海機構理事としても、機構発足以来、機構直轄拠点との協議などに積極的に関与し、両大学の連携・融合など基盤構築に尽力してきた。このような実績と指導力から第4期中期目標期間において名古屋大学の飛躍的な発展をリードするとともに、東海機構のミッションやビジョンの達成に貢献できる人物として、同氏が大学総括理事（名古屋大学総長）候補者として適任である。